

議会より町民の皆さんにとどける



議会だより

活力みなぎる緑の郷土 なかしべつ



なに～が当たるのかな？（なかしべつ夏まつり会場の1コマ）

- 運動公園用地を取得しました 2
- 一般行政・教育行政報告 町長・教育長 3～4
- 一般質問に7人で11問 あなたにかわって町政の考え方を質す 4～9
- 補正予算・条例改正などが9月議会で決まりました 10
- 町会連合会よりの請願審査の報告をします 11
- 新しい教育長が決まりました 11
- 平成16年度決算の審査特別委員会が設置されました 11
- 議会広報紙づくり研修会、管内議員研修会 12
- シリーズ 中標津町の歩み 13
- 7月から9月までの行事関係をお知らせします 14

平成17年10月 No.67



完成がもたれる中標津町運動公園の全景

中標津町運動公園用地、本年度分を取得しました。

町が北海道森林管理局より3ヶ年計画で取得計画している、運動公園用地は本年度分49,910.56㎡を94,221千円で取得しました。

運動公園用地は平成16年度に37,688.14㎡を94,221千円で取得しています。

平成18年度は残り60,614.90㎡を63,521千円で取得予定しています。

中標津町全町内会連合会よりの 請願について審査報告がありました。

本年6月議会に提出された、町議会議員、石井初義氏に対する議員の辞職及びこの問題に対する議会としての、しっかりした「けじめ」と「決断」を求める請願について、1点目は「議員辞職勧告決議」を二度議決しており、採択されているものと理解するものであります。

2点目は、この事件は一議員の道路交通法違反であり、議会運営と町政執行を怠り住民生活に影響を与えたとは考えられず、不採択とします。

このことを議会としても重く受け止め、議会運営に一層の努力をし、町民の負託に応えてまいります。

(詳細は11ページ)

一般行政報告

要望等について

根室地方総合開発期成会や北海道空港協会などの各種機関として、道並びに関係省庁・国会議員に対し道路特定財源の確保を、さらに地域高規格道路の早期整備ほか合計5件の要請を行いました。

寄贈金品について

町に対し、現金で1件、1万円、物品で1件、また、社会福祉協議会に対しても、現金で30件、百46万千7円、物品で福祉車両1台の善意が寄せられました。

中標津空港の 利用状況について

平成16年度の利用状況は、東京便で9万4千7百91人、札幌便11万4千5百87人、合わせて20万9千3百78人の利用者数で前年度比約2%、3

千2百39人の増加となりました。中標津空港発着のチャーター便は、3月に台湾に百9人の利用がありました。

本年度8月末の利用状況は、東京便4万8千2百5人、札幌便4万9千6百58人、合わせて9万7千8百63人の利用者数で対前年比4.4%と増加しています。

また、知床世界自然遺産登録により9月には福岡空港からチャーター便が運航され、3百名の方が中標津空港を利用しました。

アスベスト対策について

健康被害が問題視されているアスベスト対策について、7月19日から、町有施設の中で、飛散の恐れがある吹付けアスベストやアスベストを含有するロククウル吹付けなどの使用状況の調査を開始するとともに、助役、関係部課長で組織する「中標津町アスベスト対策連絡会議」を設置

し、今後の対策について協議してきました。

調査の結果、使用の疑いが認められる施設として7カ所が確認されましたが、分析結果を得るまで長期間が必要な状況で、不特定多数の出入りがあり、一部の箇所に含有の可能性が懸念される広陵中学校・白樺斉場・浄水場については、短期間で分析できる粉塵濃度測定を実施し、「アスベストの浮遊は認められない」と確認しました。

今後、町有施設については、アスベスト含有量の分析結果

に基づき必要な措置を検討、対応して行きます。

アスベスト対策については、これからも情報の共有に努め、関係機関連携のなか、適切な対応をしていきます。

平成17年度建設工事の 発注状況について

17年度の計画件数、百65件、金額で19億2千3百23万6千円のうち、発注状況は、件数で百27件、率にして77%。金額では、16億5千2百6万円、率にして86%の状況です。

教育行政報告

各種大会出場 結果について

第25回全日本学童軟式野球北海道大会に出場の中標津ホルスタイン少年団がベスト4に、岩内町長杯全道U-10サッカー大会には中標津サッカー少年団が決勝トーナメントに進出しました。

また、俣落スポーツ少年団が、北海道卓球選手権大会ホープ卓球大会に、第47回「赤胴」少年剣道練成大会に剣道スポーツ少年団から1名が出場し健闘してまいりました。

次に7月下旬から全道各地で開催された北海道中学校体育大会には、武佐中学校からバドミントン2名、計根別中学校からバドミントン6名、



着々と工事が進む計根別公営住宅

柔道1名、中標津中学校からバレーボール、水泳5名、ソフトテニス女子1組、卓球1名、広陵中学校から陸上競技1名、水泳8名、ソフトテニス女子1組が各々出場し、善戦健闘したところですが、中標津中女子バレーボール部は3位に入賞、広陵中は水泳男子メドレー6位、男子背泳2百m6位、百mで3位に入賞するなど、活躍をいたしました。

次に中標津町営球場を主催

場とし開催された第56回全道中学校軟式野球大会には、中標津中と広陵中が出場し、各々初戦に勝ちましたが次の試合で惜敗しました。実施に当たり、多くの関係者、町民のご協力に感謝致します。

次に第78回北海道陸上競技選手権大会に中標津農業高校から3名が出場し健闘しました。



堂々の行進。広陵中学校と中標津中学校

児童生徒
交流事業に
ついて

「第13回友好自治体交流会」の公募により小学生10名と引率2名を川崎市に派遣しました。この交流会には、川崎市と友好関係にある東和

町・富士見町の子どもたちも加わり、お互いの地域を知る意義のある事業と考えています。

中標津農業高校生の
海外派遣について

また、14年目を迎える「川崎市ふれあいサマーキャンプ」が開催され、児童・生徒35名、引率4名が本町の豊かな自然に接するとともに、乳製品の加工体験や溪流釣り体験、保落小では総合的学習を行い交流を深めました。

今年度はニュージールランドでの酪農研修を重点に、食品加工や環境対策の研修を生徒8名と引率教諭1名により7月26日から9日間の日程で実施しました。参加した生徒につきましては、今後において自己の成長と社会への貢献に役立つものと確信しています。

将来の地域経営のあり方

管内共通課題と本町の役割

町 長 殿 富 議員

質 問

町の人口は二万四千人で世帯数も一万戸を越え、五万人程度の周辺人口も含めた商業規模があるが、将来のことを思うと現状に満足してはいられません。

一般的な人口動態の予想は少子高齢化、都会へ人口集中など地域人口は減少と言われます。

いくらか町の人口が減らなくとも周辺人口が減少し、人口を構成する世代が変化し、経済的

にも影響が出てまいります。また、この現象は道州制や地方分権が進んでも止められませんが、いま出されているグラントデザイン作りを四町が力を合わせて広域連合や、強固な基礎自治体作り、当町が率先して地域の先頭に立ち、地域総合力向上を提案することが存在感あるわが町と思えます。

町長答弁
当町の現在の発展は町民の努力だけでなく、管内の皆さんの有形無形の理解と協力の賜物と考えており、今後の地域のあり方は狭い意味での地域工コは捨て、管内の痛みはお互いに共有し、繁栄は共にという意識で行政を執行したいと考えています。

また、道からのグラントデザイン作りは、今後の管内の行財政体制の再議論を行い、秋頃までにその結果を地域の意向として発信し、道の構想策定に反映させます。

今後間違いなく来る人口減少対策では、移住促進事業や空港

と広域観光のリンクで定住人口、交流人口の拡大を考え、管内の連携が重要で各首長・議会・行政そして地域の皆様に共通課題として提言してまいります。

あなたにかわって町政の考え方を質す

7名の議員が町理事者に質問しました。その内容を要約し掲載します。



発展をつづける中標津市街地

一般質問

バス停留所に「待合施設」の設置を

平川武雄 議員

実態を把握し検討

町 長

質問

現在、中標津町には70カ所のバス停留所があるが、そのうち

待合施設があるのは26カ所であり、残りには何も設備がされておられません。



増設が望まれるバス停留所

今や「高齢化」の時代は終わりに近く、まもなく「高齢社会」になることは確実であります。

バスの利用者は高齢者が多いものの運転免許のない方、さらには病院通いの

方々にとっては貴重な足になっており、雨・風・雪の時などは、長くても20分以上の時間待ちをする高齢者や病気の方々にとっては大変な苦痛になることから、住民サービスの一端として、町内全停留所に箱型の待合施設を設置していただきたい。

今から検討されるよう要望します。

町長答弁

現在、中標津町内のバス停留所は、町が設置したものや地域が設置し町が管理しているもの

がありすが、中には老朽化が激しい施設やほとんど利用されていない施設も見受けられます。待合施設を設置するためには、場所の決定と用地の確保が問題となり、特に市街地や計根別地区などにおける箱型の施設は、視界を妨げ交通障害を引き起こす原因となることや、多くの用地が必要なことから、全力所に設置することは困難としても、実態を十分把握し、利用頻度の低い施設の移転利用なども考慮しながら今後検討してまいります。

「道の駅」建設を

平川武雄 議員

喜ばれる施設整備を検討

町 長

質問

知床が世界自然遺産に登録され、さらに11月にはアフリカで開催されるラムサール条約「締約国」会議において、別海町風蓮湖ほかが新規登録される予定となっていることから、当町の国道・道道を通る観光客が増えるなか、本町に是非「道の駅」を建設するよう各関係機関に要請をし、できるだけ早い時

期の実現にむけて努力をしていただきたい。

町長答弁

道内を旅行する観光客の移動手段は車が主流であり、交通の円滑な流れを支えるため、旅行者が安心して利用でき、地域の文化・名所・特産物などを活用した多様なサービスができる「道の駅」の機能を有した施設の設

置要望が強く求められております。

現在管内の「道の駅」は、根室市・羅臼町の2カ所にあり、他は国道沿いなどにトイレと駐車スペースを備えた施設しかなく、旅行者には不便な状況にあると認識しております。

今後、これらの施設ができることで、地域の核が形成され、建設に向けて関係する地域の町が連携し、シーニックバイウェイ構想による観光道路指定も含めて各行政機関等と協議し、広域的見地に立った、行政区域にとらわれない「道の駅」の位置

決定を行い、利用者に喜ばれる施設検討をしたいと考えております。



各地に設置されている「道の駅」

牛の糞尿の臭気対策と利活用

柴野忠征 議員

課題解決に関係機関が連携

町 長

質問

知床が世界遺産に登録され、世界的・国内的にも注目され、観光客が大幅に増えることが予想されます。

空の玄関口中標津空港に降りた第一印象は、散布された糞尿の臭気である。

当町の基幹産業酪農の現状は、中標津・計根別両農協で乳用牛は約4万7千頭、牛1頭が排泄する糞尿は一日約64kgで一日3

千七になり、以上の状況から行政として糞尿処理対策 臭気に対する対応 排泄糞尿の利活用 酪農専門となった根釧農業試験場との連携の四点について伺いたい。

町長答弁

農畜産物の輸入自由化、国際化に対応できる経営体を目指し、規模拡大、基盤強化を図り、環境整備が立ち遅れ、平成11年家



整備が進んでいる堆肥舎

設整備が完了。

野積みや素掘りの不適切な管理による環境問題の発生源としての側面と、堆肥など適切な処理を施して肥料に活用 スラリーストアーでの曝気処理、有用微生物群を集合「EM菌」「ゆづ水」等で臭気対策、スラリーインジェクターで直接地中にスラリーを注入 家畜排泄物の発生量は年間65万t、堆肥生産量は糞尿全量を農地に還元 農業試験場、農業改良普及センター、農協等関係団体が連携した組織を設置し課題解決に向け取り組んでまいります。

中標津町の防災対策は

柴野忠征 議員

地域住民との連携

町 長

質問

「災害は忘れたころにやってくる」近年日本列島を大地震が直撃、本町では「町地域防災計画」が策定され「住民の責務」

「防災機関が実施する活動」が定められ町民にどの程度理解されているか、関係機関が備蓄している物と数量 家庭備蓄飲料水一日3ℓ確保の対応 町を分けている標津川の橋が寸断された場合の交通対策 高齢

者などの社会的弱者への対応

住民組織等との連携など、以上五点について伺いたい。

町長答弁

防災対策は平成10年「町地域防災計画」を策定、住民の責務・防災機関の活動は本計画の中で定め、町や関係機関の円滑な応急活動を実施するため、住民組織・民間団体の協力は災害対策に不可欠と考えております。

災害応急対策計画で水防等

備蓄は土のう袋他25品目・毛布50枚・日用品セット15セット・給水タンク2基・ポリ容器2千5百60枚 水の対応はトイレまで多様な用途がありタンク等で各家庭へ給水 橋が寸断した場合、航空ヘリ等の活動要請

「緊急災害援護者安否確認ネットワーク実施要綱」を定め、社会福祉協議会等の協力を得て救護 地域住民との連携は災害警報・災害状況等の通報・被害調査・そのため、防災活動の意識啓蒙を図り町内会を対象に

避難、消火、応急手当訓練などを実施します。



住民を対象とした応急手当訓練

障害者用トイレの設置を

計画的な改修の検討

渡邊將史 議員

町 長

整備トイレに障害者用トイレの設置を要望します。

冬季の維持管理に難点のある公園には温水洗浄便座が設置されていません。

質問

障害者、高齢者の方々から、役場庁舎一階に設置してある障

害者用トイレに、ウォッシュレットが設置してないので設置してほしいとの声があります。

町長答弁

町の公共施設の中で身障者用トイレは役場庁舎、総合文化会館、町立病院、運動公園管理棟、総合福祉センター、保健センター、計根別支所、交流センター、東7条緑地、末広公園、文化会館多目的広場のトイレに設置されています。

この中で、建設年度の古い役場一階トイレ、保健センター、計根別支所、交流センター及び

今後、障害者用トイレが設置されていない公共施設のトイレ改修の検討も含め、役場庁舎一階などの障害者用トイレ改修につきましても、温水洗浄便座化や人工肛門、人工膀胱造設者の方々への対応、乳幼児連れでの利用の対応であります。ベビーキープ化なども考慮し、利用度、緊急度などを勘案しながら、計画的な改修の検討をしてまいります。



南中標津入りに「心と福祉の町へようこそ」と、心と福祉の町へまたどうぞ」と、福祉の町の看板が建てられておりますが、公共施設、公園等未

通学路の確保を

早期着工に努力

飯島佐市 議員

町 長

近くが東小学校・広陵中学校へ通学しています。

通学路は主にバイパス・南6

丁目・墓地の中を通っています。路線的には南9丁目が一番便利ですが未開通です。子どもたちを思うと緊急に設置願いたい。

また、大型店の開店により交通量も多く、東13条南9丁目に

信号機設置が必要です。

質問

道路は町の産業発展や、住民と生活環境の向上や、地域のバランスを考え、効果的・効率的に欠くことのできない施設です。当町は国道のバイパス化、市街地から離れた場所に大型店が開店し、道路環境も変化して、団地形成が多く見られます。東19条南9丁目付近にある住宅団地に住んでる児童生徒百人

町長答弁

町道の整備は5ヶ年計画に基づき、緊急性・優先度・さらに財政状況等を勘案し順次整備し

ています。

東19条南9丁目、10丁目付近は急激な宅地化により付近に住んでいる児童生徒が多く通学に遠回りな状態も承知しています。本年度、概略測量設計費を予算化し、現在調査しています。

南9丁目の整備は地域住民・地権者の理解と協力が得られれば適切な通学路の確保をし、早期に工事を着手したい。

東13条南9丁目の信号機設置は、当該町内会からも要望があり、道路整備と併せて設置できるよつ、関係機関と協議してまいります。



延長が望まれる道路整備

基幹産業と教育

後藤一男 議員

体験を重視した学習の推進

教 育 長

質 問

中標津町は酪農を基礎とした農業が基幹産業の町です。

農業が果たす経済効果はもとより景観をはじめ、農業がもつ多面的機能等は、町への役割に非常に大きいものがあります。

このような環境の中にあつて子どもたちが、しっかりと教育を受けることが町の将来において、大きな財産になると考えます。

町民の方々が農業を通して一つの考え方を共有できること、素晴らしいものです。基幹産業を通して子どもたちへの教育の考え方を伺います。

素晴らしさをしっかりと勉強し、育ってほしいものです。基幹産業を通して子どもたちへの教育の考え方を伺います。

教育長答弁

地域産業の教育については現状、小学校3年生と5年生の社会科で実施しています。

内容につきましては「酪農の



乳製品づくりを体験する子どもたち

まち中標津町」において、酪農家の様子や乳牛を通じた地域とのつながりなどです。

また地域の「牛まつり」に参加するなど、酪農家と地域のつながりを学んでおります。

「糞尿臭と町のイメージ」の対応研究

松村康弘 議員

必要事項について国や道に要望

町 長

質 問

「糞尿臭と町のイメージ」この問題解決については地元農協の主体者としての自覚を促す必要があると考えるので、取り上げさせていただきます。

空港周辺の糞尿臭に対し、中標津農協は、高価なスラリーインジェクターを導入して対応している事は承知しており、高く評価しています。

しかしながら、糞尿の堆肥化

無臭化については、個々の農家の努力にゆだねられています。

例えば乳質の管理のように農協として、取り組んでいるという現状には至っていないのではないのでしょうか。

さまざまな農家の取り組みを他に発信したり、高い効果を上げる方法を推奨したり、農協のなすべきことに助成をして、報告を求めるような方法を提案します。

町長答弁

本町の観光を考える時にも、基幹産業としての酪農が永続的に発展するためにも、この臭気問題は避けて通れない事項であると認識しています。

このため、農協を主体とし、町や農業改良普及センターが連携を取りながら、農家個々が取り組んでいる事例を収集し、その効果を検証するとともに、町外における先進的事例なども広く集め、これらを積極的に農家に提案していくとともに、意識の向上を図ってまいります。

さらに、これらの結果を踏ま

さらに牛乳を使った調理を通して、牛乳の使い方や酪農家の仕事についての学習やチーズ工場の見学などを行っている学校もあります。

この他にも「親子農業体験事業」が企画実施されたり、職業体験活動の一環として農業実習なども行われています。

今後の方向としては、自然環境を生かした酪農生産基地であり、そのことに誇りを持てるようにすることが大切であると考えており、酪農を教室で学ぶ理解と、同時に酪農に係る体験を重視した学習の推進に努めます。

えた上で、抜本的対策を必要とする事項については、強力に国や道に要望していかなければならないと考えます。



中標津空港に隣接する牧草地

世界遺産とシンボルロードの並木と電線

松村康弘 議員

無電柱化を要請していく

町 長

質問

中標津市街から空港をつなぐシンボルロードの並木が成長し電線に引っかかってきました。

最近、羅臼町で木の枝が原因で停電事故がありました。市街地から空港を結ぶ幹線道路の電話線と電力線が並行して設けられており、将来の事故は必至だと恐れるものです。

そこで、世界遺産になったところで、北電に対して地中

埋設を働きかけるべき時ではないでしょうか。

息の長い働きかけと資金が必要な事業であることは十分承知いたしていますが、ゆめゆめ枝の切り落とし（姿を整える剪定ではなく）をしないようにと申し上げます。

町長答弁

国は昭和61年から電線の地中化計画や、無電柱化計画を推進



電話線を越えはじめたシンボルロードの並木

してきており、今日まで6千2百kmの整備が行われてきています。

知床世界遺産と山裾の道体験コースの充実を

松村康弘 議員

リニューアルを検討

町 長

質問

阿寒国立公園と知床世界遺産をつなぐルートとして標茶町萩

野からいわゆる知床山系の山裾の道を通って標茶町薫別に通じる道があり、萩野にはわが町の養老牛や開陽台へ誘う大きな看板が立っています。

このルートの武佐岳から西側をプロローグ知床、東側をディープ知床と位置付け、養老牛、からまつ湯、荒川美術館、開

陽台、育成牧場、クテクンの滝、金山、川北温泉などを宇宙から見る写真にマップ化して、皮膚感覚に訴えるような体験ゾーンとして発信すべきではないでしょうか。

また萩野の看板は痛みも激しく、例えば『知床メナシ山の辺の路』のようなキャッチコピーの研究とともにリニューアルを考えるべきではないでしょうか。

町長答弁

商工会青年部が開陽台と育成牧場の間で実施したシーニック

当初は、商業地域の顔となるような通りの整備を進めてきましたが、近年では地域活性化や高齢化など社会ニーズが多様化してきたことから、中規模商業系地域や、住居系地域、主要な幹線道路においても無電柱化を実施してきており、わが町のシンボルロードが自然景観か、都市景観か、については論議のあるところかもしれないが、「安全な通行空間の確保」「都市災害の防止」「情報通信ネットの信頼性向上」などの理由に該当するべく、要望を強めてまいりたいと考えます。

バイウエイ推進運動の具体論として質問をとらえ、ルート指定への努力と併行して関係者と十分に協議し検討してまいります。大型看板のキャッチコピーは民間との共働研究の中で創り出し、リニューアルと同時に対応することで検討してまいります。育成牧場は本年度より、牛を間近で見たり、牧場内の自然を観察できる機能を持った施設として整備されているので、開陽台展望台より育成牧場へ至る遊歩道の両側にも、地元の宿根草を植える運動なども実施してまいります。



新たなキャッチコピーとリニューアルが求められる観光案内看板

運動公園の用地の取得が 9月定例会で決まりました

平成17年9月12日から16日まで開催し、議決された主なものを掲載いたします。

9月議会に 提案されたもの

(専決処分の承認を求めるもの)

一般会計予算は千三百三十一万四千円増額し、百十五億三千七百五万七千円となりました。
・今回の専決処分は衆議院議員選挙費用です。

下水道事業特別会計予算は八千八百五十万円増額し、十四億八百六十九千円となりました。

(9月補正予算)

一般会計予算は三千百八十七千円増額し、百十五億六千八百九十四千円となりました。

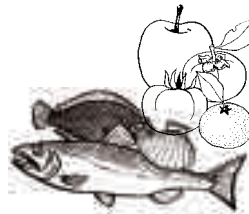
介護保険事業特別会計予算は五百七十三万五千円増額し、九億六千九百三十五万六千円となりました。

簡易水道事業特別会計予算は百四万三千円増額し、二億五千八百四十八万七千円となりました。

条例の改正

中標津町公設地方卸売市場条例の一部改正

・卸売の業務に係る物品の品質管理方法の事項が定められました。



その他議決事項

財産の取得について

・中標津町運動公園用地の取得が議決されました。

面積 4万9910・56㎡
取得価格 9千4百22万1千円
取得先 北海道森林管理局

議員提案による条例改正

議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

・平成17年12月1日から一年間、報酬を据え置くことが議員提案で決まりました。

意見書

分権時代の新しい地方議会制度の構築を求める意見書

提出者 殿守 富 議員

地方分権により地方公共団体の自己決定権・自己責任も大きくなるなか、議会の立法・財政的機能及び行政監督機能の強化、議会と長の関係見直し、議会組織と運営の弾力化など新たな地方議会制度の構築を強く要望しました。

公共工事における賃金等確保法（公契約法）の制定を求める意見書

提出者 佐藤 武志 議員

今日の不況下、建設投資全体が落ち込み、現場で働く労働者の賃金・労働条件が大きく切り下がり、生活危機がさらに深刻化しています。

生活するための建設労働者の賃金を底支える制度となる「公共工事における賃金等確保法」の制定を強く要望しました。

自治体財政の充実・強化を求める意見書

提出者 高田 重樹 議員

国から地方への税源移譲、国庫補助負担金の削減、地方交付税制度改革である「三位一体改革」は、本来地方の権限や裁量権の拡大をめざすべきだが、現状は

中標津町全町内会連合会よりの請願について

議会運営委員会報告

4、審査の結果

平成17年6月定例会に中標

津町全町内会連合会会長小野

弘氏から提出された町議会議

員、石井初義氏に対する議員

の辞職及びこの問題に対する

議会としてのしつかりした

「けじめ」と「決断」を求め

る請願は当委員会に審査付託

され、審査結果を次のとおり

報告し、一部採択、一部不採

択と議決されました。

議会運営委員会
委員長 児玉 清光

1、審査事件
町議会議員、石井初義氏に

対する議員の辞職及びこの

問題に対する議会としての

3、審査月日

平成17年7月7日・7月25

日、8月5日・8月12日の

4日間

本請願の審査にあたって

は、7月25日の委員会です

願の紹介議員である杉本剛

氏と後藤一男氏を説明員と

して出席願ひ、請願の主旨

について確認をしました。

同一主旨であることから既

に採択されていると理解す

るものである。

二点目の議会の解散につ

いては、この度の事件は一

議員の道路交通法違反であ

り、このことが議会運営と

議員の活動に大きく影響を

及ぼし、町政執行を著しく

怠り住民生活に影響を与え

たととは考えられず、不採択

とするものである。

しかしながら議会議員と

いう、公職にある者として

あつてはならない行為であ

り、本町のイメージを低下

不十分である。
新年度予算において、地域住民が安心して暮らすの
に不可欠な事業の確保や公共サービスの持つセーフテ
ィネット機能が担保されることを強く要望しました。

人事

教育委員会委員の任命に同意しました。



氏名 小出 伸 史 氏

住所 中標津町東7条北9丁目

任期 平成17年10月1日から

平成21年9月30日まで

決算審査 特別委員会設置

委員長 平川 武雄
副委員長 熊倉 重樹

平成16年度各会計決算の認
定は、決算審査特別委員会が
設置され、審査付託をされま
した。
委員長 後藤 一男・佐藤 武志
副委員長 柴野 忠征・吉田 貫一
委員 渡邊 将史・藤渡 久雄
殿守 富

議会広報の 盲点と焦点

議会広報発行の技術向上をはかる目的で北海道町村議会議長会が開催している「議会広報研修会」が8月23日に札幌市で開かれ、道東・道北地方から約3百名が参加しました。

当議会からは、広報委員5名が出席して、「送り手」発想から「受け手」発想へ編集企画と特集企画 編集レイアウトのテクニク 文章表現を考える。

などの、議会広報の作り方について「広報プランナー」和田雅之氏の講演を聞き研修を受けました。

議会広報紙の発行には一定の制約はありますが、町民の方々に興味をもって読んでもらえるものが要求されています。

道内の議会のなかで、事務局や専門家にまかしている議会広報もあるようですが、本町議会では、記事や原稿の収集・写真撮影・紙面のはりつ



全道から300余名が参加した議会広報紙研修会

け・校正など、全てを広報委員会で行っています。

定例議会が終了すると翌月末の発行となっていて、この間に5〜6回の委員会を開催して多くの町民の皆様にご覧いただけるよう努力をしています。

今回の研修は大変勉強になりましたので、これを機に「議会だより」の一層の充実をはかってまいります。

合併新法と市町村自治

7月15日、標津町で議員研修会が開催され、北海道企画振興部地域振興課佐藤参事の「合併新法と今後の市町村自治の方向性について」というテーマで講演を受けました。

内容は、北海道の市町村合併推進構想の策定方針等についてでした。

策定方針は

合併新法は、国において慎重・公正な手続きの下で定められたもので、法に沿って対応するとともに、原則として国が示した「自主的な市町村の合併を推進するための基本的な指針」を踏まえる。

道内の市町村のあり方について議論することになることから、旧特例法での道内の合併協議の検証を行うとともに、市町村の意見を十分に聞き、市町村の取り組みとの連携を密にしながら検討を進める。

住民自治の視点に立った構想とするため、道民の認識と理解を深める努力が重要となることから、構想の策定方針から具体的組み合わせ等に至る過程で、手順を踏んで検討を進め、積極的な周知を行うなど透明性の確保に努める。

将来の北海道の地方自治の姿を見据えた検討が必要なことから、市町村の現況や将来の見通しについての確かな把握に努めるとともに、道州制に向けた道内外の検討や支庁制度改革に関する検討との整合を図る。

市町村の面積が広いという地理的課題があるなか、合併前の市町村の特色や個性を合併後も維持していくべきという地域の想いを受け、特例法で認められている地域自治の仕組みの活用を検討する。

策定手順は

北海道は「市町村合併推進協議会」の意見を聴き、平成18年度の早い時期までに合併推進構想を策定し、公表する。

・審議会は、平成17年第2回定例道議会に設置条例を提案し、成立後、全体で4回程度開催する。

・地域説明会等を開催し、住民、市町村などの意見を広く聴取する。

・構想策定に係る庁内の意思決定は、合併支援本部会議において行う。

また、国の合併特例法（17年4月1日から22年3月31日まで）国と地方の財政状況、市町村合併の進捗状況について説明がありました。

シリーズ

中標津町の歩み

尾崎 豊町長の就任と財政再建

昭和31年3月5日、国鉄標津線中標津・上武佐間で列車4両が脱線転覆し、24名の負傷者を出す標津線開通以来の重大事故が発生しています。

このころより無競争が予想されていた、町長選挙は中標津農協参事、尾崎豊の出馬で急にざわめきを増した。

選挙は、地区労支持をとりつけた現職有利の形で、4月25日に行われた結果は予想に反し、尾崎3千4百63票、横田2千4百71票で新人尾崎が3代目首長の座についた。

選挙の結果について「中標津地区労二十年史」には告示直後になって地区労では現職の横田を推せんすることに単産代表者会議で決定された。

当時の農業政策が町自体皆無であり、農家も寒冷地にあつて具体的な農業政策を望んでいたことがあげられると、その敗因にふれているが、分村後の村長・町長として行政手腕を振った横田は、のちに根室市長として活躍している。

5月1日、37才で町長に就任した尾崎の最初の仕事は町の財政再建だった。

当時、町の累積赤字は3千百万円にのぼり、加えて5千

7百81万円の起債をかかえて苦しい財政運営だった。

赤字財政の主な原因は戦後の学制改革にもなう中学校建設の財政負担、人口増加による諸施設の整備拡充、とくに酪農経営基盤が確立されておらず財政基盤はきわめて弱かった時代でした。

5月12日の臨時議会で任期を迎えた助役の出立七郎にかわり標津村助役で尾崎とは友人関係であつた小野幸三が助役に選任された。

小野が助役に就任したとき、即座に支払義務を生じる債務は一般会計・国保会計などで8百10万円余りあつた。

このため昭和30年12月施行された「地方財政再建促進特別措置法」の適用を受けることになった。

法律内容は厳しく、29年までの累積赤字は利子補給による起債で棚上げする30年度の赤字は臨時特別交付税によつて是正する31年度



昭和31年3代目町長の尾崎豊氏

以降は行財政改革によつて赤字を生じさせないよう指導する。

昭和31年度より10ヶ年計画の再建計画を樹立したが、国の援助による再建だけに道の指導は厳しく、職員の増員はもとより消費的経費も自由は許されず、新規事業はすべて国の許可を得なければならなかった。

尾崎町政がスタートした32年度の基本方針として四項目を明らかにした。

財政再建の基本方針を崩さず諸施策を講ずる31年の冷害を契機として農業の恒久的発展策を考究する中

標津市街地を中心とする都市計画の促進と商工業振興問題を中心にした清潔な町づくりを進める 義務教育施設の整備について、理想的整備は長期的計画を樹立して行う。

これによる32年度当初予算は7千5百10万円であつた。

32年4月30日、高度集約酪農地域の指定によつて、ニュージーランドから輸入したジャージー種という乳牛が到着している。

また、中標津大橋が永久橋にかけかえられることになつ



標津線開通後最大といわれた中標津・武佐間の列車転覆事故。負傷者24人を出したが死亡者はなかった

て工事がはじまる。かねてより町民の要望だつた公民館が旧役場庁舎を改造して開設され、公共施設が乏しかった時代だけに公民館は「町民の茶の間」として活用され、社会教育を大きく前進させた。

10月には養老牛温泉バス、町内循環の中標津・武佐間のバス、計根別・上標津・西竹のバス運行も実現をみている。

12月に設立された阿寒バス株式会社は中標津町に阿寒バス営業所を開設して辺地の交通確保に努力したが、家用車の増加とともに利用者の減少となり、45年には運行路線の縮小・廃止を図つた。

交通体系が変化するなかで国鉄では32年12月25日に協和駅を開設している。

(中標津町史より)

平成17年7月から9月までの行事関係

期 日	行 事	出席者	期 日	行 事	出席者
6月30日	北海道議長会主催議員研修会	18 24	15日	中標津町殉公者追悼式	議 長 他
7月2日	(旭川市)		22日	総務常任委員会	5 5
7月5日	根室北部廃棄物処理広域連合臨時議 会(別海町)	副議長他2名	22日~	議会広報特別委員会研修会	5 5
7日	議会運営委員会	10	24日	(札幌市)	
8日	議会広報特別委員会	5	26日	文教厚生常任委員会	6 6
15日	根室管内議長会主催議員研修会 (標津町)	22 24	28日	北方領土返還要求・東北国民大会 (根室市)	議 長 他
25日	議会運営委員会	10	9月8日	議会運営委員会	10
27日~	北海道森林・林業・林産業活性化推 進議員連盟連絡会中央要請及び林活 地方議連全国連絡会議定時総会	吉田 辰 議員	12日	9月定例会本会議(1日目)	24 24
30日			13日	産業常任委員会	6 6
8月2日	全道林活議連連絡会総会	杉本・岡部議員	13日	建設常任委員会	6 6
~3日			14日	総務常任委員会	6 6
5日	議会運営委員会	9 10	14日	文教厚生委員会	6 6
8日	産業常任委員会	6	15日	議会運営委員会	10
9日	建設常任委員会	6	16日	9月定例会本会議(2日目)	23 24
12日	議会運営委員会	10	20日	議会広報特別委員会	5 5
			21日	議会広報特別委員会	5 5
			27日	議会広報特別委員会	4 5

上段 = 出席者・下段 = 定数

議員の年賀状について



今年最後の議会だよりになります。
公職選挙法の規定により、議員が選挙区内の有権者に年賀状を出すことができないことになっています。
この点ぜひご理解をお願いいたします。

議会だよりに対する
ご意見をお寄せ下さい。

〒086-1197

北海道標津郡
中標津町丸山2丁目22番地
中標津町役場

TEL(0153)73-3111

FAX(0153)73-5333

議会事務局にご連絡を...

- ・ホームページは
<http://www.nakashibetsu.jp>
- ・メールは
nakasi-t@arens.or.jp

発行 / 中標津町議会

編集 / 中標津町議会広報特別委員会

訂正とお詫び
平成17年7月発行の 66号で二部誤記載がありました。訂正し、お詫び申し上げます。
13ページ「世界潮流と日本の進路」講演報告文中、三・中国経済について「粗鋼生産2億7千万円」とあるのは「2億7千万トン」の誤りです。

町の風景も木々の葉が色づき秋も深まり、冬の足音も一歩一歩近くに聞こえてくる季節となりました。今年も本町には、スポーツ・文化などの行事をとおして道内・道外から多くの方々が訪れ、活気ある一年が経過しようとしています。訪れた皆さんには「もう一度来てみたい町」と感じていただけたことと思います。「議会だより」も今年最後となりますが、町民の皆さんには年間読んでいただき、ご意見もいただき、本町にありがとつございませした。

これから、わかりやすく読みやすい「議会だより」の発行に努力しますので、よろしく願います。

編集を
終えて



「議会だより」も今年最後となりますが、町民の皆さんには年間読んでいただき、ご意見もいただき、本町にありがとつございませした。